

目 次

音韻の実用性と普遍性	阿久津 智	(2)
『日葡辞書』に見る古代語形容詞語構成の変化	于 艶麗	(1 6)
仏教由来漢語「執着」についての考察	胡 新祥	(2 3)
「崇拜」の漢字音の変化をめぐって	肖 江楽	(3 7)
清末 (1895-1911) における中訳日本書の一考察 —西師意の場合—	舒 志田	(4 8)
「量の程度が大きい意味を表す」形容詞について	蕭 惠文	(7 4)
「bush」はなぜ「柴」と訳されたのか —聖書の日本語訳について—	山下 洋子	(9 9)
インドネシア語における「語種」 —日本語学の視点から—	青柳 沙恵	(1 1 8)
近代医学用語「痙攣」の成立と定着について	権 宇琦	(1 4 2)
奈良期と平安期の「気」	波木井 優子	(1 5 5)
ルビの役割 —その多様化と文章表現における働き—	吉田 敬	(1 6 9)
『雅言集覧』「ろ」「は」部における『源氏物語』用例	平井 吾門	(1 7 8)
執筆者紹介・編集後記		(1 8 6)